

I 検討課題と協議経過

1 検討すべき課題と検討の視点について

千葉県教育委員会では、令和4年3月に、今後10年間の県立高校改革に関する基本的な考え方を示す「県立高校改革推進プラン」を策定し、生徒の多様なニーズへの対応や、キャリア教育・職業教育の充実など、県立高等学校の現状と課題を踏まえ、「全ての高校の魅力化と学びの改革」「キャリア教育と職業教育の充実」「学校間連携」「戦略的な広報」の4点を重点事項として、県立高校の魅力化・特色化を推進することとしました。

本プランでは、県立高校の現状と課題の1つとして、人口の減少を掲げ、郡部と都市部の差について、次のように述べています。

中学校卒業者数は、平成元年以降、全県的に急激に減少してきましたが、令和4年3月から10年後の令和14年3月には、さらに約6,200人減少することが見込まれています。

特に、第1学区から第3学区までの、いわゆる都市部においても、10年後には約3,000人が減少する見込みとなっています。

また、第4学区から第9学区までの、いわゆる郡部においては、少子化に伴う小規模化が進行するとともに、これまでの再編により、高校が離れて点在している状況にあり、交通の利便性や学校選択の幅において、都市部との差が拡大しています。

千葉県は地域特性が非常に多様であり、まさに「日本の縮図」といえる状況にあります。人口減少が進む県内各地域において、人口減少が教育の地盤沈下を引き起こさないよう、少子化や地域の状況、私立学校も含めた高校の設置状況等を踏まえた高校の適正配置の在り方について検討する必要があります。

このような状況を踏まえ、それぞれの地域の特性を踏まえた高校の在り方について検討する必要があることから、中学校卒業者数が減少する中でも、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるように、県立高校の学校規模の適正化を図り、併せて学校及び学科の適正な配置を行うこととし、県立高校の配置について、具体計画の方向を次のように決めました。

○多くの友人・教職員との触れ合いや切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進します。

- 都市部では、1校当たりの適正規模を原則1学年6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討します。
- 郡部では、1校当たりの適正規模を原則1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。
- 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合を見込んでいますが、学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。
- 多様なタイプの学校の中から、生徒が興味・関心や進路希望に応じて、自分に合った学校が選べるよう、適正配置に配慮します。
- 定時制高校については、学びの機会を保障するとともに、生徒・保護者及び地域のニーズ、地域バランス等を考慮し、配置の在り方について検討します。
- 通信制高校については、県内唯一の通信制高校である千葉大宮高校を中心に、県内全域の生徒が学ぶことができる体制づくりを検討します。

これらの具体計画の方向に基づいた学校の適正な配置を検討するに当たり、地域関係者の意見を聴くために学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会を、今後は郡部だけでなく都市部においても同様に中学校卒業生数の減少が見込まれることから、県内全域を対象に設置することとしました。

地域協議会では、学校の適正配置はもとより、地域の特性や実状を踏まえ、「将来の子どもたちにとって、この地域の高校がどうあるべきか」、「どのような学びがこの地域の子どもたちに必要か」など幅広い視点からさまざまな意見を聴取することを目的としました。

また、「千葉県教育振興基本計画」や「県立高校改革推進プラン」を踏まえ、「地域における県立高校の在り方」、「地域との連携」をキーワードとして、それぞれ具体的に次の点を検討の視点として、議論を深めることとしました。

- ・「地域における県立高校の在り方」では、地域の産業を支える人材を輩出し、担い手育成の拠点となる学校、多様な生徒のニーズに応え、様々な機能を備え地域に貢献する学校について

・「地域との連携」では、企業等の地域の教育力の一層の活用、地域活性化への貢献、市町村や地域との連携・協働等について

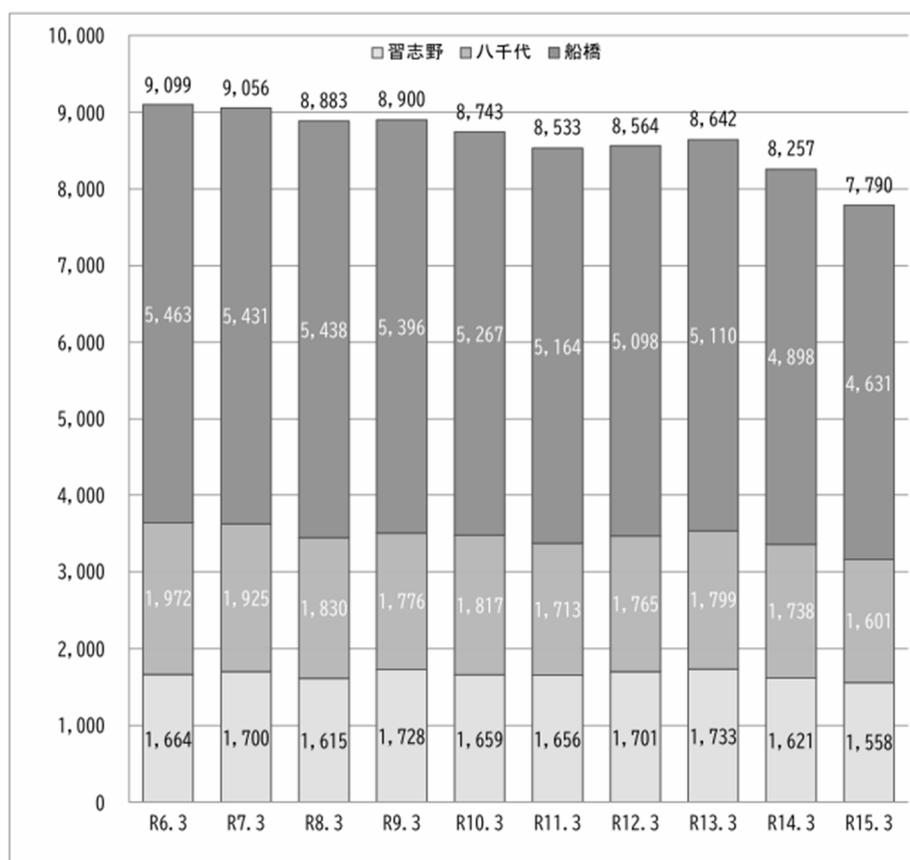
以上の検討の視点のもと、令和5年度習志野・八千代・船橋地区において地域協議会を設置し、3回の協議を重ねたうえ、本報告として取りまとめました。

なお、習志野・八千代・船橋地区における高校の状況ですが、県立高校は全日制15校（うち1校は定時制を併置）、市立高校は全日制2校、私立高校は全日制8校（うち1校は通信制を併置）、通信制1校が所在^{※1}しています。学校規模^{※2}は、県立高校全日制15校では、令和5年度入学生の学級数合計が107学級、平均学級数が7.1学級であり、定時制高校1校の学級数合計は同年度入学生で3学級でした。次に入試の状況ですが、全日制6校において合計280名分の定員未充足が生じておりますが、一方で志願倍率が1.5倍を超える学校も複数あり、二極化が進んでいると言えます。また、習志野・八千代・船橋地区の中学生の状況^{※3}は、令和4年3月卒業者数は8,211名でしたが、10年後は推計で8,257名となり、令和4年3月の卒業者数と比較して46名増加します。この地区では今後10年間で大幅な減少は見込まれませんが、二極化の現状と隣接学区や県全体の県立高校の学級規模や中学卒業者数の減少傾向から、10年後の学校規模は県が示す適正規模の維持が危惧される状況にあります。

※1 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の所在については、資料編「資料1 会議資料」9ページを参照。

※2 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の学校規模については、資料編「資料1 会議資料」23～24ページを参照。

※3 習志野・八千代・船橋地区の中学校卒業者数の状況については、資料編「資料1 会議資料」25～29ページを参照。



習志野・八千代・船橋地区の国公私立中学校卒業者数の推移と見通し

2 協議の経過について

第1回

令和5年8月21日（月）開催

（於：千葉工業大学津田沼キャンパス5号館 6階会議室）

○ 座長選出

【議題】

- 1 地域協議会設置の趣旨
- 2 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について
- 3 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の現状と課題

第2回

令和5年9月27日（水）開催

（於：千葉工業大学津田沼キャンパス5号館 6階会議室）

【議題】

- 1 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の在り方について
 - ・普通科及び普通系専門学科・コース
 - ・職業系専門学科・コース
 - ・総合学科
 - ・社会のニーズに対応した教育（中高一貫教育校、定時制高校等）

第3回

令和5年10月12日（木）開催

（於：千葉工業大学新習志野キャンパス12号館 6階会議室3）

【議題】

- 1 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の適正規模・適正配置について
 - ・望ましい学校規模について
 - ・習志野・八千代・船橋地区における魅力ある高校について

Ⅱ 協議結果

1 地域協議会開催の趣旨

地域協議会開催の趣旨を説明しました。

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」3 ページ（習志野・八千代・船橋地区地域協議会設置要綱）を参照。

2 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」

次の点について説明しました。

- ・これまでの高校再編について
- ・「県立高校改革推進プラン」の概要
- ・「第1次実施プログラム」の概要

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」4～7 ページを参照。

3 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の現状と課題

習志野・八千代・船橋地区の県立高校の現状と課題として次のような内容を説明しました。

（1）習志野・八千代・船橋地区の県立高校 15 校の現状

- ・概要、沿革、募集学級数の推移、入試の状況、進路の状況について確認。
- ・地区内のコース等の設置については、船橋高校については、平成 21 年度に単位制へ移行し、令和 6 年度からは理数教育拠点校に指定しました。
- ・船橋啓明高校は、平成 23 年度に船橋西高校と船橋旭高校を統合し、船橋啓明高校の校名で現在に至る。統合時に単位制を導入しました。
- ・船橋古和釜高校は平成 27 年度に地域連携アクティブスクールに指定しました。
- ・船橋豊富高校については、令和 5 年度に船橋豊富高校に福祉コースを設置しました。
- ・船橋高校の定時制課程については、令和 4 年度に船橋高校と行徳高校の両定時制課程を統合し、統合時に総合学科を設置しました。

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」10～22 ページを参照。

（2）募集学級数の推移

- ・プランでは、都市部における適正規模を1 学年 6～8 学級としている。1 学年 10 クラス規模の学校が多くあったが、全県的な生徒数の減少を受け、募集学級数を減じるとともに再編を行った。一時的な生徒増への対応として、一部の学校で1 学年 9 学級とした時期があり、この地区では、八千代高校、八千代東高校、津田沼高校、実籾高校、船橋高校、船橋啓明高校、船橋芝山高校、

船橋二和高校の8校が9学級であった時期があるが、現在では船橋高校のみ普通科8学級、理数科1学級の9学級募集となっている。

- ・一方で、都市部における適正規模の下限である6学級を下回る学校は、令和5年度募集では八千代西高校、船橋北高校が5学級募集、船橋豊富高校が4学級募集となっている。

※ 詳細は、資料編「資料1会議資料」23ページを参照。

(3) 習志野・八千代・船橋地区の中学校卒業生の現状と今後の見通し

- ・平成20年3月から平成30年3月まで、この地区の中学校卒業生数は増加し、以降、減少傾向を示しているが、令和4年は329名増加している。なお、この地区から第2学区内の公立高校全日制へ進学する割合は45%前後を推移している。
- ・習志野市では令和4年3月に1,349名の中学生が卒業したが、公立高校全日制に進んだ中学生は781名で57.9%、県外への進学は110名で8.2%となっており、公立高校全日制に進んだ中学生781名の進学先の内訳は、約70.4%の550名が第2学区内の公立高校全日制に進学している。
- ・八千代市では令和4年3月に1,727名の中学生が卒業したが、公立高校全日制に進んだ中学生は1,065名で61.7%、県外への進学は63名で3.6%となっており、公立高校全日制に進んだ中学生1,065名の進学先の内訳は、約66.0%の703名が第2学区内の公立高校全日制に進学している。
- ・船橋市では令和4年3月に5,135名の中学生が卒業したが、公立高校全日制に進んだ中学生は2,991名で58.2%、県外への進学は406名で7.9%となっており、公立高校全日制に進んだ中学生2,991名の進学先の内訳は、約79.8%の2,387名が第2学区内の公立高校全日制に進学している。
- ・習志野市・八千代市・船橋市に所在する中学校に在籍する中学生は、総武線や京成線へのアクセスがよいため、千葉方面に進学する生徒も多く、加えて、八千代市や船橋市に所在する中学校に在籍する中学生は、北総線や東武野田線へのアクセスも良いため、八千代市からは第4学区、船橋市からは第3学区の公立高校全日制への進学者も多い。
- ・地区全体の傾向として、公立高校進学者の75%程度が第2学区内の公立高校全日制を選んでいる一方で、公立高校進学者の13%が第1学区の公立高校を選んでいる。また、地区内の中学校卒業生数の27.6%、4分の1以上が私立高校へ進学しており、県外への進学が7.1%となっている。
- ・生徒の流出入状況は、県立高校入学者選抜では、専門学科及び総合学科については全県一区だが、普通科は学区制となっている。ただし、隣接学区の受検が認められており、第2学区は隣接する第1・第3・第4学区との間で、

学区の枠を越えての受検が認められている。第2学区からは、第1学区への流出、第4学区からの流入が多い状況となっている。

- ・地区の中学校卒業生数の推移と見通しについては、今年度の中学校3年生の在籍数は、三市合わせて8,211名となっているが、10年後には8,257名と46名増加しますが、次年度の令和15年は、7,790名とおおよそ5%程度、467名の減少が見込まれている。

※ 詳細は、資料編「資料1 会議資料」25～29ページを参照。

4 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の在り方について

協議会委員からは次のような意見が出されました。

○協議会委員の意見

- ・様々な国の子供たちが学校にはいるが、教育が追いついていかない。外国人を受け入れられる、センター校のようなものを作っている市町村もあるが、高校にもあったら嬉しい。
- ・一つの学校の建物の中に小さい学校が5校くらい入っているイメージのマグネットスクールというものがアメリカにある。それぞれ色々なことに特化している学校であり、その中にサブカル的なものも考えられるとよいのではないか。学校に行くことがかつて目的になっていたが、学校でやりたいことをまず作ってあげることも必要である。
- ・就職希望者に対する手厚い指導を売りにした高校が1校ぐらいあってもよいのではないか。
- ・学びについては議論から始めるのではなく、まずは作ることを先にして、作った後に議論を深めることで深い理解があり創造性が高まるのではないか。
- ・高校の選択の条件として、校舎が新しい、設備が整っている、制服のデザインなどが関係しており、県立高校は私立高校に比べ、校舎設備等で古くなっているという感が否めない。
- ・他の学びとの差別化を図るためのキャリア教育と職業教育の充実、専門学科やコースの拡充が必要ではないか。
- ・選ばれる学校となるための教育環境の整備、特に施設設備の更新充実が必要ではないか。
- ・小中学校には地域との一体性があるが、高校は地域性が小中学校と比べると今までは薄かったのではないか。



- ・前回、広域通信制高校は自由度が高いというところが魅力になる。現代社会においては価値観が多様化してきているため、子供たちがそれぞれ自由に選べるというようなことも魅力になる。
- ・改めて県立高校の校舎をしっかりと整備した方がいいと思う。学校選択の際に誰が主導するのかというある調査において、1番は塾、2番は母親で、父親は関与していないという衝撃的なデータがあった。その中で、そのお母様方が「この学校で子どもを学ばせたい」と思えるような理由の一番はエアコンとトイレであった。
- ・船橋豊富高校に農業に関連した食物調理やスマート農業を学べるコースの設置、また八千代西高校の周辺には企業も多く工業団地もあるので、起業家を育成するコースを設けるなど、地域の力を借りつつ、地域自体も活性化できるような高校があるとよい。

5 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の適正規模・適正配置について

○協議会委員の意見

- ・定員が埋まらないと職員の士気が下がってしまう。それから、生徒も定員が埋まらないところで入学してくるため、子供たちの自己肯定感にも影響してくるのではないか。
- ・4～5クラス規模の学校に勤務したこともあるが、子供たちにとって大事な体験活動、部活動、学校行事、これがなかなか活性化しない。大きな学校だと、子供たちはいろいろな部活の中から自分の好きなものを選ぶことができる。
- ・午前中で授業が終わって、後は地域の学校で集まって部活をやることで、子供たちの活動の幅も広がったりするのではないか。
- ・船橋地区に適正規模の数値を当てはめていくことが本当にいいことなのか。高校も義務教育のような視点で考えてみるのもいいのではないか。大きい学校で子供たちの求める教育を進めたり、親も魅力を感じたりするような学校づくりをするというのは、一般的に難しい面もある。高校における統合も、そのことについては反対もないし、必要があるならばそうするしかないと考える。
- ・県立高校で一番人数の多い中央帯のところに関しては、学校配置のバランスが悪いというのは感じていた。その辺りが周辺の学区に流出する理由でもあるのではないか。



- ・小規模な学校というのは、子供たちにとってはいい学びがあるかもしれないが、先生方にとってみると学校運営が大変である。学校規模は違っても、入学式・卒業式・文化祭など学校の行事はどこも変わらない。
- ・規模の小さい学校に行ってしまうと、やりたかった部活動ができないということが起こってしまう。
- ・高等学校にある程度の規模がないとうまくいかないということがある。ただ一方で、生徒の持つ特性によっては、少人数の方が本人らしさを生き生きと発揮できる。むしろ大人数だと沈み込んでしまう。あるいは自分を出すことができない。せつかくの成長のチャンスを摘んでしまうという可能性もある。

Ⅲ 今後の検討に向けて

習志野・八千代・船橋地区には、県立高校 15 校、市立高校 2 校が所在し、その学科構成は、普通、理数、体育、園芸、家政があり、他学区に比べ普通科の設置率が高くなっています。一方、中学生の状況は、卒業者数は令和 4 年度が 8,211 人であり、10 年で 46 人増加します。他学区ほど減少は進んでいない中、充足率が低い学校もあり、地域内で二極化が進んでいる状況です。また、不登校、多国籍の生徒など多様なニーズへの対応が求められています。

このような特色を支え、更に強い地域を作る高校について、協議会委員は今後の高校再編を地元の切実な問題としてとらえ、お互いの立場を越え、熱心に議論していただきました。その中で出された意見を集約すると次のとおりです。

- 一定規模の学校の必要性
- 習志野・八千代・船橋地区の地域資源を生かした学びを持つ高校の設置
- 小規模校における学びのセーフティーネットの担保
- 多様なニーズに対応した教育の展開
- 施設設備の充実

協議会委員の意見を踏まえ、

今後の習志野・八千代・船橋地区における高校の在り方については、以下の要素に留意し、更に検討を進める必要があると考えます。

- ◎習志野・八千代・船橋地区の特色を生かした学科やコースを設置し、地域資源を生かした教育を展開する高校
- ◎活力ある教育活動の維持するため、適正規模を満たしていない県立高校の今後の在り方について、統合も含めた再編の検討
- ◎生徒の多様なニーズに対応するため、魅力あるコースの設置

最後に協議会員の皆様には、それぞれの立場から多岐にわたる貴重な意見を

頂きましたことに感謝申し上げます。皆様の意見をもとに習志野・八千代・船橋地区の子どもにとって、より活力のある魅力ある学校づくりを今後も進めてまいります。